

厳寒の雪山トレッキングと宿の温泉を楽しむ 蓼科山

実施日 2016年1月23日(土)～24日(日)
 天候 1/23 曇りのち雪
 1/24 雪時々晴れ
 リーダー 石原 勝正
 参加者 島本陳重、白石恵美子、中村友子、伊藤久雄、宇野輝代、瀧澤きよの、石原勝正 計7名
 費用 交通費@3,000円(車2台)
 宿泊費10,100円 合計13,100円
 タイム 1/23 車1(北朝霞駅－関越道経由) 車2(八王子駅－中央道経由) 蓼科高原ペンション村の宿「四季の丘すばる」集合(前泊)
 1/24 ペンション(車7:40～8:10) すぐらん峠駐車場(8:32～8:35)女神茶屋登山口(8:38～10:00)2110標識地点(10:15～11:50)森林限界地点(11:50～12:10)蓼科山頂(12:15～13:15)2110標識(13:35～14:20)女神茶屋登山口(14:20～14:23)すぐらん峠駐車場－(車)北朝霞駅or八王子駅

1/23 先週までの暖冬傾向とスキー場などの雪不足が一変して今週末は日本列島に大寒波襲来と西日本エリアと東北・北海道地区に大雪警戒情報の中、悪天候の場合は途中撤退も覚悟して山行実施を決定。

北朝霞駅と八王子駅に集合、2台のマイカーに分乗して蓼科高原に向けて出発。大寒波到来の予報を警戒してカレジャーに向かうマイカーも少なく快適に走行し、出口のインターチェンジも時間通り順調に通過。高速を降りても5日前の積雪で真白の雪原となっていたが、一般道の通行規制もなくビーナスライン経由で予定より早く蓼科高原のピラタス・ペン

ション村に到達。偶然に関越道経由の島本車と村の入口で合流し今夜の宿となるペンションに到着。ペンションのオーナーによると暖冬の影響でスキー宿泊客が少なく、今日は我々7人の専用宿泊所となった。

雪も降り始め、荷物をペンションに預け北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅まで往復の散策。夕食前に談話室でビールの乾杯、小宴会、順次風呂(温泉)に入る。



夕食は食堂で6時30分からオーナー手創りの洋食コース料理をいただきながらオーナーお勧めのボトルワ

インを楽しみ午後8時前後に終了。

雪が降り続けているので部屋に戻り有志で宴会再開。明日の雪山登山に備え11時過ぎに就寝。

1/24 朝5時半起床、外の景色は昨夜からの降雪でかなりの積雪(20cm)の様。戸外の温度は-17.5度。6時半朝食も洋食スタイル(野菜サラダ、パン、卵焼きなどであったが部屋も料理も温かくなくオモテナシがいまいち?)。

7時半に車で宿を出発しスズラン園地駐車場に8時10分到着、先着車両は7～8台程度。登山口からかなりの積雪のため最初からアイゼン装着して、完全冬山装備で全員集合記念撮影、8時40分に女神茶屋登山口を出発。



積雪によるラッセル状態を覚悟していたがすでに先行者がいたため登山道のトレースがしっかりと着いている。

最初は樹林帯の中、笹等下草のある緩

い登りを進み、雪も止み無風で時折日も差す森の中を全員余裕のうちに1時間ほどのスノートレッキングを楽しむ。その後、標高1,850m程度から登



山道も岩のゴロゴロした沢筋に変わり最初の急登が始まる。アイゼンは利くものの歩きにくい岩と雪の急登が続き、30分ほどの厳しいアルバイトを強いられてから暫く登ると標高2110mの標識のある中間地点に到達、小休憩をとる。ここから一旦傾斜も緩くなり樹林の中を半時ほど歩くと次の急登が始まる。モンスターのよう樹氷も両側に分かれ、明るく開けた登山道になる。遠方を見下ろすと晴れた空の下に見える北八ヶ岳の山々の景観が素晴らしい。ここから山頂近くの森林限界まで標高差300mを1時間半ほどかけて岩と雪

のルートを一気に直登する。この辺りが最後の難所で山頂から下山してくる先行登山者と遭



遇し始める。山頂の強風や厳しい寒さの状況を聞いて山頂をあきらめ撤退する登山者もでていたようだ。その後、森林限界地点を越え山頂に近づくと吹き付ける強風のため雪の少ない露岩地帯となる。トレースも強風で消えてしまうため、ルートを示す標識ポールや露岩に付けられた鎖やロープを目印に進み20分ほどで蓼科ヒュッテを經由して2,530mの山頂に到達。天気は晴れというものの吹き付ける雪風吹のため南八ヶ岳、南北アルプ

ス、中央アルプスなどの景観は見られない。山頂は時折20mを超える強風とマイナス20°Cの厳しい露岩と雪の広場の



中心に位置している。強風に体が飛ばされないよう姿勢を保ち、こぶし会6名の登頂記念の集合写真を撮って早々に山頂を下った。残念ながら雪混じりの強風と寒さのため少し遅れたIさんを山頂で待つことができず帰りの森林限界地帯で合流して全員揃って下山することとなった。

追記：ペンションのオーナーから蓼科山は3つの登山口（女神茶屋登山口、竜神橋登山口および白樺湖7合目登山口）があり、女神茶屋登山口が最も登りが厳しいので1番ゆるやかで登りやすい「7合目登山口」を勧められた。ところが後日のヤマレコで、24日の『当日の7合目登山口は先行登山者が全くなく積雪40センチラッセルの連続で山頂まで到達できず山頂直前で撤退』との書き込みがありました。我がパーティも岩と雪の混じった厳しい急登ルートのアイゼン登攀にやや厳しいものがありましたが、こぶし会今季の最初の冬山登山を完遂できたのは、女神茶屋コースを選んだことにより先行登山者によるトレースがしっかりしていたこと、並びに同行者全員のご協力の賜物であったと感謝の意を表してレポートを終わります。

(記&写真・石原 勝正)